

## 地域の農地を守って、攻める農業 ～経営継承後の農業経営改善プラン～

(有) 山岡

代表取締役 山岡 茂

### 1. はじめに

平成21年度において、父が旧チャレンジプランの認定をいただき、鳥取市を中心として5.7haから約10haに経営規模を拡大してきました。

その間、地域内で増えていく耕作放棄地の解消と農地を守ることを主目的とし、父と共に農業経営を改善してきました。

しかし、国の米政策の転換や近年の米価の下落により、先行き不透明な状況が続く中、更に経営規模を拡大し、自ら付加価値をつけて販路を拡大していくことが必要であると考えています。

また、消費者の安全安心志向の高まりや商品選定の厳しい目がある中、価格競争に勝っていかなければなりません。その中でのコメの品質管理はとてもしっかりとした状況があります。

そのため、父が経営する農地と所有している農業機械等は無償で譲り受け、平成27年4月に有限会社山岡に経営継承を行ないました。法人化による農業経営の効率化を図り、持続可能な農業をしていく考えです。

### 2. 農業経営の現状と目標

- (1) 水稻は、収穫時期の違うコシヒカリ、ひとめぼれ、きぬむすめを近年は作付しています。また、野菜等では農閑期収穫時期の白ねぎに力を入れて作付しています。



経営面積の現状と目標

(単位：a)

区 分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	目 標 生産量 kg	目標反収 Kg
水稲								
【もち】	9.8	1.8	9.8	9.8	9.8	9.8	450	450
【コシヒカリ】	350.3	363.2	388.7	402.6	437.6	447.6	21,485	480
【ひとめぼれ】	265.4	178.4	135.6	140.0	140.0	150.0	7,200	480
【特栽培コシヒカリ】	172.0	172.0	172.0	172.0	172.0	172.0	7,396	430
【きぬむすめ】	185.8	294.0	296.1	290.0	330.0	360.0	17,280	480
大豆、レンゲ	112.5	17.0	78.2	75.0	50.0	50.0	1,000	200
白ねぎ	10.6	10.6	10.6	10.6	10.6	10.6	197	186
合計	1,106.4	1,037.0	1,091	1,100	1,150	1,200		

今後も、作業効率、品質管理を重視して、少しずつ農地の集積をしていきます。

(2) 集落の農地は後継者不足で耕作放棄地の増加に歯止めがかけられない状況となっており、受託作業の依頼も増えてきているので、できる限り作業受託していきたいと考えています。

受託作業

(単位：a)

区 分	H25	H26	H27	H28	H29	H30
代掻	150.0	150.0	150.0	200.0	250.0	250.0
田植え	150.0	150.0	150.0	200.0	250.0	250.0
刈り取り	150.0	150.0	150.0	200.0	250.0	300.0
畦塗り	350.0	350.0	400.0	400.0	400.0	400.0
乾燥	400.0	400.0	400.0	450.0	500.0	550.0
糞摺り	300.0	300.0	400.0	450.0	500.0	550.0
延べ面積計	1,500.0	1,500.0	1,650.0	1,900.0	2,150.0	2,300.0

### 3. 主な農業機械・施設の所有状況

区分	台数	馬力・面積	導入年度	導入手段
トラクター	2	33ps 17ps	H15	自己資金
田植機	1	6条	H14	〃
コンバイン	1	4条グレンタウ	H12	〃
大豆播種機	1	3条	H19	〃
籾播種機	1		H20	〃
畦塗機	1		H16	〃
作業場兼農機具倉庫	1棟	木造平屋 200㎡	H21	チャレンジプラン
乾燥機 (40石)	1	20石:RTC200-XLD(増設)	H22	〃
乾燥機 (30石)	1	30石:RTC300-XLD	H22	〃
籾摺り機	1	SH500A-D	H22	〃
選別計量器	1	AZP-35A	H22	〃
精米機	1	SRT1550E	H22	〃
白米用色彩選別機	1		H24	自己資金
有機肥料散布機	1		H25	〃

### 4. 将来の農業経営の理念とプランの目標

#### (1) 将来の農業経営の理念

- ①集落の担い手として儲かる農業経営と集落の農地を守る
- ②法人化により規模拡大と明確な経営を行なう

#### (2) プランの目標

- ①新たな販売体制の確立による販売額向上

**販売収入 10,000千円以上を目指す。**

- ②作業受託の拡大等による地域農用地の保全管理（耕作放棄地の解消）

**作業受託面積 2,300aを目指す。**

### 5. 目標達成のための課題と改善内容、効果

#### (1) 目標達成のための課題

- ①昨今の価格低迷により販売額が上がらないため、直販を拡大していく必要がある。
- ②高品質な米の生産が必要。
- ③経営規模の拡大により、現在の機械では作業能力・効率が悪く、改善が必要。

## (2) 改善内容及び効果

### ①個人販売の維持・拡大

ブランド名「鳥取大塚米特別栽培コシヒカリ」、「鳥取大塚米普通コシヒカリ」として、年間8.1t(30kg270袋)を他、個人販売も実施しています。また、鳥取大塚米普通コシヒカリとして、年間1.8t(30kg60袋)をに販売しています。

毎年、食味検査をしていますが、特裁コシヒカリが80～83ポイント、普通コシヒカリが78～80ポイントと、どちらもおいしいと言われる点数結果です。販売は白米に精米して販売します。精米機に関してはチャレンジプランで導入しましたが、茶米、異物(草の種等)、カメムシ被害の米を除くため平成24年度に自己資金により白米用色彩選別機(120万円程度)を導入して、安定した品質のものを販売するようにし、お客様からのクレームが出ないように対応しています。徐々にではありますが、年々個人向けの米販売は増えています。

また、農閑期には白ねぎを栽培して、JA出荷とへの個人販売をしています。今年4年目で、売上は50～60万円になっています。

### ②出荷玄米の品質安定

直販分以外は、玄米出荷として、JAに出荷しています。大半は玄米出荷になりますが、近年の傾向としてカメムシ被害により品質が低下しています。今年(平成26年産)に関しては、一度出荷したものが等級外とみなされ受理されず、業者から玄米用の色彩選別機を借用し、再出荷できました。

カメムシ対策として、年2回のヘリ防除(防除費用80万円/年)をしていますが、その時の天候などに左右されて防除効果が上がっておらず、結果として品質が落ちてしまっています。使用農薬の種類を見直すなどして費用対効果を上げ、玄米用色彩選別機で確実に高品質な玄米を出荷していくことが重要と考えます。(約10年で償却)

### ③作業能力、効率アップで、作業受託の幅が広がる

大規模農業経営者の集会でも、作業受託は儲かる農業経営の中でも必須の収入源であると言われます。近隣の農家さんとの話でも、「農業機械(田植機、コンバイン)が壊れたときは、田んぼを作ってください」とよく言われます。ヘリ防除も導入しているところですが、実作業の作業能力、効率をアップさせ、さらに作業受託面積を拡大していくためにも、5条植の田植え機と、より処理能力の高い4条刈コンバインが必要です。(田植え・稲刈り時期が集中するため)

④作付面積の拡大により、価格低迷の補充

作業能力をアップさせることで、経営規模を拡大し、価格低迷に影響されない強い経営体を目指します。また、乾燥機の増設と、フレコンスケールは導入済のため、自身のペースで出荷できるので、経営面積の拡大にも対応できます。

⑤刈取り時期を適期にすることで、良質なお米の品質を実現

コシヒカリとひとめぼれ、きぬむすめと収穫時期の違う種をそれぞれ栽培することで、刈取作業を分散させ、それぞれ適期に収穫します。

⑥法人化のメリット

法人化することによって、信用・信頼のアップに繋がると同時に、より明確な農業経営を行います。有利な制度融資の活用、補助制度も利用しやすくなり、将来的に従業員を雇用し安定した農業経営を永続させていくにあたって、法人格の方が良いと考えています。

6. 具体的な取り組みと役割分担

項目	H26	H27	H28	H29	H30	実施主体
経営面積の拡大	○	○	○	○	○	本人
作業受託面積の拡大	○	○	○	○	○	本人
新規顧客の開拓（サンプルを試験出荷）	○	○	○	○	○	本人
田植機5条植え導入			◎			本人、県、市
玄米色彩選別機導入		◎				本人、県、市
コンバイン4条刈り導入				◎		本人、県、市
鳥取県特別栽培農産物認証制度の活用	○	○	○	○	○	本人、県

注) ◎は、県、市の支援が必要なもの（がんばる農家プラン事業）

7. 支援事業の内容

(単位：千円)

項目	H27	H28	H29	負担区分
田植機5条植え導入		2,959		県 1/3
玄米色彩選別機導入	5,837			市 1/6
コンバイン4条刈り導入			7,689	本人 1/2
合計	5,837	2,959	7,689	

事業費は税込み金額